


第 170 回 都市懇サロン レポート	『商店街巻き込み型のまちづくりの実践』		
講 師	第三次中野区社会福祉活動計画 策定委員 山本 祐也 氏	開 催 日	平成 25 年 4 月 16 日 (火) 18:00 ~ 20:00
講 師 プロフィール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1983 年静岡県藤枝市生まれ 〈所属〉 ・ 地域自主組織 堂楽 (代表) ・ (株)アセスコンサルティングジャパン (経営企画) ・ (株)ワイルドカード (web ディレクター) ・ 中野区第三次社会福祉活動計画策定委員 ・ 社会福祉協議会街中サロン堂楽カフェ 		
お話の概要	<p>※カフェオープンまでの経緯、カフェでのコミュニティ形成とその後の地域活動への展開について、事例をまとめた配布資料に基づき、以下の項目を中心に説明を頂いた。</p> <p>①自己紹介 (まちづくりに関わったきっかけ) ⇒「切れる 17 歳世代」。同世代が引き起こした事件を取り上げ、事件が起きた場所の共通点 (郊外、IC 付近、大型 SC 等) から千葉県東金市に着眼、現地聞き込みを通じ、コミュニティ (人と人との顔の見えるつながり) の重要性を認識。</p> <p>②コミュニティカフェの利用 ⇒堂楽カフェに集う人々による地域活動への発展。様々な属性の人々の参加動機・目的はそれぞれ。都内 20 箇所以上でコミュニティカフェの展開に至る。</p> <p>③商店街との信頼関係作り ⇒2009 年、中野新橋川島商店街の空き店舗でのコミュニティカフェを利用した商店街活性化を打診される。「活性」の定義は人それぞれであり、言葉の認識の摺り合せと信頼関係の構築を図る (空き店舗での月例カフェ、シャッターアートや屋台村の実施、戦前の話を聞く会、飲み会に参加)。</p> <p>④新しいお祭りの立ち上げと成功 (初回五千名を集客した東京行燈祭の開催経緯) ⇒商店街での各活動を通じ、否定的な意見も寄せられたが肯定的な意見が多く、商店街関係者との信頼関係構築を達成。2012 年、「東京行燈祭」の開催・成功、商店街の団結に繋がる。</p> <p>⑤今後の地域資源を利用したまちづくりへの発展 ⇒従来の地域関係組織 (商店街、社会福祉協議会、町内会、防災士、ボランティア) は、各々が地域住民との関係性を持っているが、今後、地域関係組織間の連携＝地域自主組織の構築が必要との見解。連携のきっかけとしてのお祭り等開催が必要。</p>		
	意見交換の概要	<p>※各出席者の質疑・意見をもとに講師が見解を示す形式で行われた。要旨は以下のとおり。</p> <p>●商店街関係者の悩み／街コン等イベントを企画するが店主の高齢化により、行動に結びつかない。また、周辺各商店街に状況を確認するが本音の話も聞けない。コンビニ等の増加による個人経営商店の減少により、街自体の衰退に陥っている。 ⇒賑わいを取り戻すには、営利を追求せず、人が集い何気ない会話を行う場づくりが必要。</p> <p>●信頼関係の構築について ⇒中野の場合、イベント開催マニュアルを作成、青年会に伝授している。マニュアルは現象学を応用したもので、関係者の性格分析等にも及び、継続的に加筆している。信頼関係構築には否定意見の理由 (原因) を考慮し、アイデアを引き出す (自己知能をひけらかさない) 姿勢が必要である。信頼関係構築には週 1 回、5 ヶ月間程度の関係継続が必要である。また、マンツーマンでの対話が効果的。</p> <p>●活動成功のポイント ⇒企画運営活動は、大人数で役割を分担すると相互に依存関係になる傾向にあるので、少人数で関心事が似通っている場合が望ましい。</p> <p>●商店街の衰退により、商店街そのものがコミュニティ形成の場として相応しいか再検証する必要がある。</p>	
記 録 者 の ひ と こ と	<p>中野新橋川島商店街での地域活動を中心に、地域活性化の成功の秘訣を垣間見ることができた (ような感覚を得た)。講師を始め地域関係者の興味や意欲を発意とする行動結果として地域活性化があるように感じた。現象学に基づく対人関係構築が興味深い。</p> <p style="text-align: right;">《都市懇サロン運営部会 委員 今井 重行》</p>		